

登録コード	BSB82574	開講年度	2026				
授業題目	生命工学演習 (22BS以降)					担当教員	諸白 家奈子
英文授業名	Seminar in Biotechnology					副担当	
単位数	2	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	研究室配属の修士2年生
講義室				授業形態	演習	備考	
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					【授業の達成目標】	
	2026BSカリ, 2025BSカリ, 2024BSカリ, 2023BSカリ						
	【専攻】環境調和社会, 知識基盤社会を多様に支える健康・福祉・医療・創薬分野の高度な専門知識と実践的技術力					生殖細胞工学分野におけるこれまでの歴史と研究成果を理解するとともに、生殖細胞工学技術が今後どのように人類の生活に関与するのか、また新たな発展があるのかを議論することで、創造的な思考の構築を目指す。また、自分の研究内容を論理的な文章で表現する技術を習得する。	
(2)授業の概要	生殖細胞工学分野における新たな知見を得るため、生殖細胞工学技術を用いた実験を実施し、実験結果を多角的な視点から評価・検討する。						
(3)授業計画	1. 実験計画の立案し、教員とディスカッションを行う(0.5時間/週 x 40回) 2. 実施した実験結果について研究室メンバーに適切に説明し、論理的な質疑応答および議論を行い、研究に役立てる(1時間 x 6回) 3. 生殖細胞の形成メカニズムの解明、ライティング技術1(論文の種類と注意点) 4. 生殖細胞の発育メカニズムの解明、ライティング技術2(緒論・結果および図について) 5. ライティング技術3(考察について) 6. ライティング技術4(結果について) 7. ライティング技術5(生殖細胞工学研究に関する論文の作成および添削) 8. ライティング技術6(生殖細胞工学研究に関する論文の作成および添削) *3 8は各回とも5時間程度(1年を通して)の授業内容となる。						
(4)成績評価の方法	実験への取り組み状況(50%)、研究報告会での発表および他学生の発表への質疑(50%)で評価する。						
(5)成績評価の基準	1) 専門分野内外の論文を幅広く読み、研究テーマの発展に努め、2)議論等を積極的に行い、3)研究内容について論理的な文章で表現し、4)適切に説明することが求められる。1~4が十分に達成できかつ学会で発表できる内容に達している場合、卓越している(S)、十分に達成できていれば、かなり上にある(A)、概ね達成できていれば、やや上にある(B)、基本事項が達成できていれば、水準に達している(C)と評価する。 評価基準： S：90-100, A：80-89, B：70-79, C：60-69, D：59以下						
(6)事前事後学習の内容	自身の研究で行う実験に関連した複数の英語文献を実験開始前に熟読すること。実験後に教員と結果をディスカッションを行うとともに、得られた考察に関連する英語文献を検索・熟読する(最低30時間の自学学習)。						
(7)履修上の注意	特になし						
(8)質問,相談への対応	口頭もしくはメール(宛先: kmoro89@shisnu-u.ac.jp)で随時受け付ける。						
(9)その他	なし						
【教科書】	なし						
【参考書】	スッキロ動物生殖生理学, Keith K. Schillo著、講談社 Molecular Biology of The Cell 第6版, Newton Press社 専門誌; Biology of Reproduction, Oxford Academy Reproduction, Bioscientifica Ltd.						